

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、足踏み状態となっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

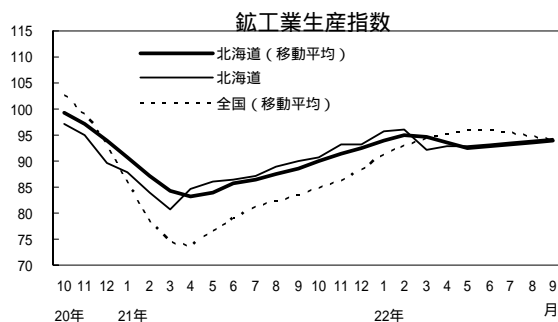
(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回(平成22年8月)	今回(平成22年11月)	
景況判断	持ち直しの動き	足踏み状態	
鉱工業生産	持ち直しているものの、一服感がみられる	おおむね横ばい	
住宅建設	増加	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

- (1) 第一次産業は、生乳生産、水産物の水揚量ともに前年を下回っている。
7～9月期は、生乳生産は、牛乳等向けが増加したものの、乳製品向けが減少したため、総量では986,415tと前年比0.8%減となった。水産物の水揚量(主要8港)は、さんまを中心に前年を下回っている。
- (2) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
食料品は、猛暑により、清涼飲料水が好調だったため、増加した。パルプ・紙は、7、8月に選挙等の特需があったものの、9月以降は減産の方針のため、全体ではおおむね横ばいで推移した。鉄鋼は、自動車向けが好調なため、増加した。電気機械は、メーカーからの部品受注が減少傾向にあるため、減少した。金属製品は、低水準であるが、単月に公共工事の発注が集中したため、増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期		
食料品	23.9	3.4	1.4	1.2	5.2		
パルプ・紙	10.7	0.4	0.1	2.7	4.4		
鉄鋼	8.6	2.9	1.3	0.9	2.5		
電気機械	8.4	9.1	3.5	3.7	42.0		
金属製品	8.0	15.0	2.6	4.3	1.2		
鉱工業	100.0	1.7	1.0	1.4	3.4		

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

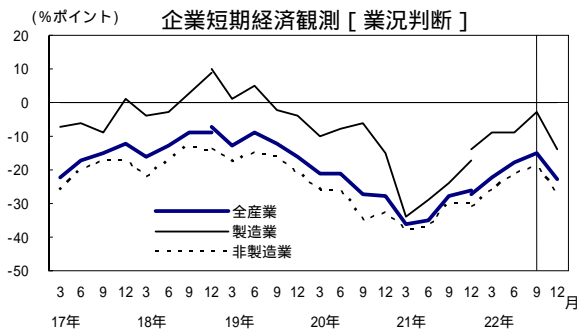
2. 7～9月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。北海道の最新月は速報値。

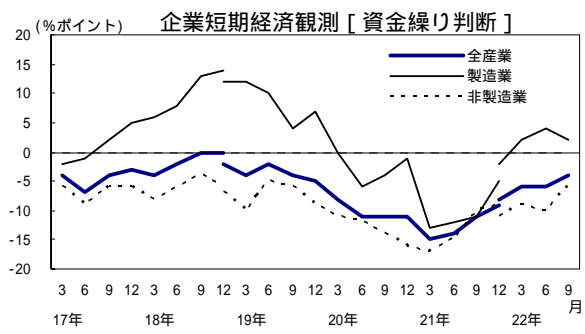
2. 全国及び北海道の太線は後方3か月移動平均。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

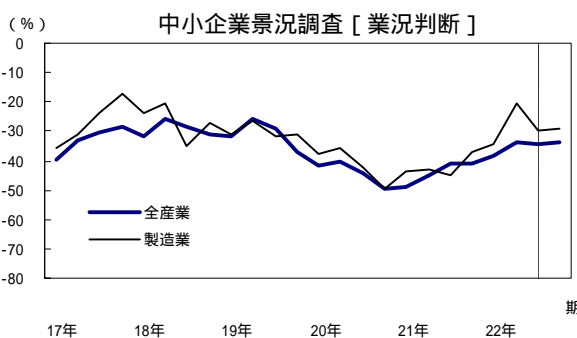
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年12月は予測。18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

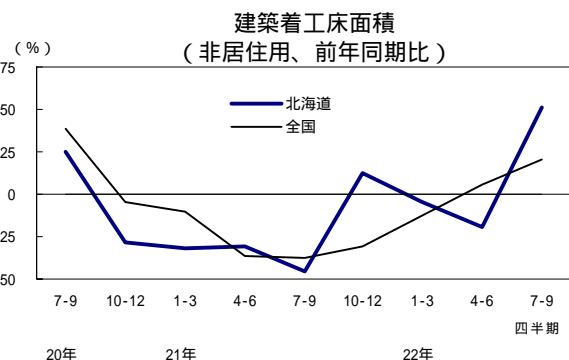
「公共工事が大幅に減少している。建設業が地域を支えている市町村が多いため、その影響は深刻である。個人消費は、一部の業種には政策支援効果もみられるが、全般的に低価格志向が強いことから、企業業績は伸び悩んでいる(金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 22年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

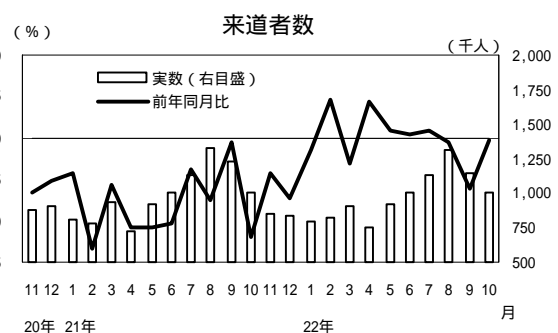
	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	36.2	27.7(6.6)
製造業	46.1	43.8(12.7)
非製造業	30.2	20.1(3.5)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は、持ち直しの動きがみられる。

来道者数は、7月は、航空機、鉄道の来道者が好調だったため、全体でも前年を上回った。8月は、フェリーの減少により、前年を下回った。9月は、昨年の大型連休の反動から、JR、フェリーが低調だったため、前年を下回った。10月は3連休の影響でJR、フェリーが好調だったが、航空機の減少により、全体ではほぼ横ばいで推移した。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

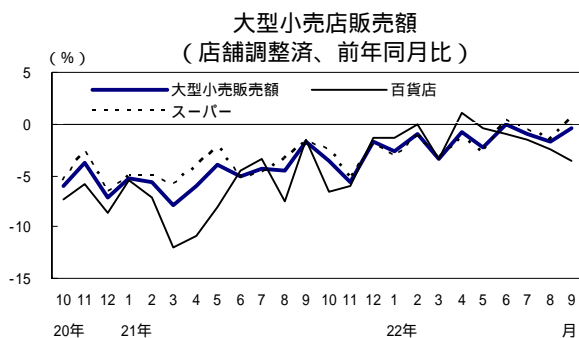
大型小売店販売額

百貨店は、7月は、夏物セールでの婦人衣料が堅調に推移したものの、昨年行われた特別セールの影響から、前年を下回った。8月は、猛暑の影響により単価の低い夏物商材に動きはあったが、秋物商材に動きが無く、前年比の減少幅が拡大した。9月は、気温の高い日が続いたため、衣料品や身の回り品などの秋物商材の動きが悪かったため、前年比の減少幅が拡大した。日本百貨店協会によると、10月の売上高は札幌地区で前年同月比0.1%減、札幌を除く北海道地区で同0.7%増となっている。

スーパーは、猛暑の影響で夏物商品が好調だったこと等から、前年比減少幅が縮小した。

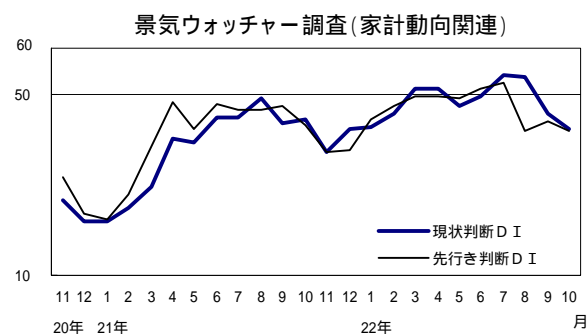
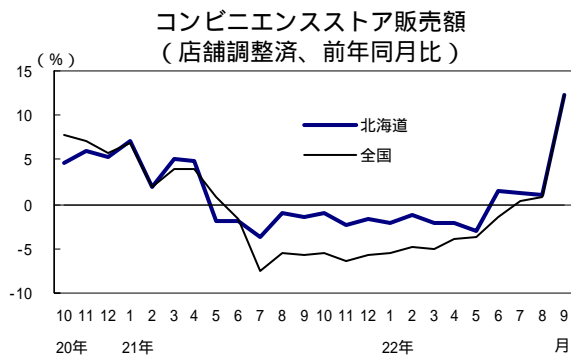
景気ウォッチャー調査(9月)[家計動向関連(現状)]

「今月は値上がり前の駆け込み需要でたばこが前年の3倍売れた。たばこの売上の増加が売上の減少分をカバーした月となっている(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多みられた。



	21年10-12月	22年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	3.5	2.5	1.0	1.1
百貨店	4.4	1.8	0.1	2.5
スーパー	3.2	2.7	1.3	0.6
乗用車	18.2	21.6	20.7	11.7
景気ウォッチャー	41.1	46.5	49.3	51.1

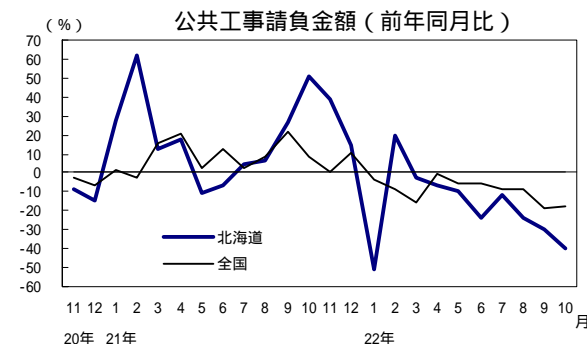
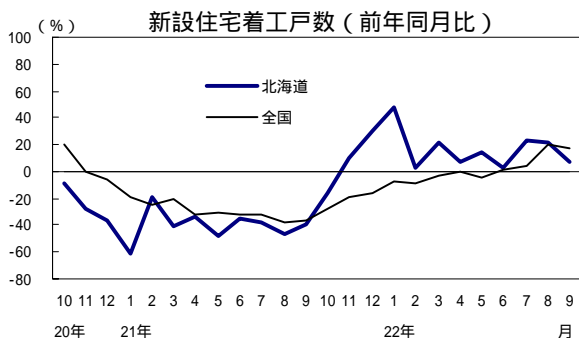
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。
 2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。
 3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲すべてで前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

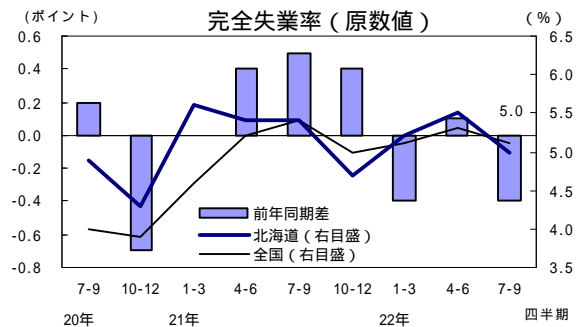
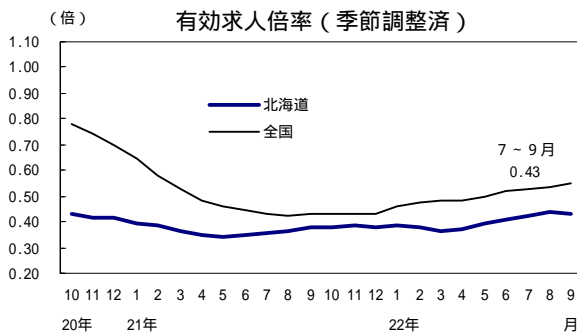


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率(全数)は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(9月)[雇用関連(現状)]

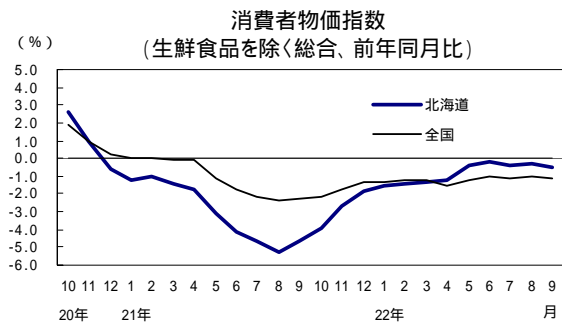
「季節型の臨時派遣アルバイトの求人依頼がある一方で、正社員の求人は横ばいであり、企業業績の先行きに対して慎重な姿勢がうかがえる(求人情報誌製作会社)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加し、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年10-12月	22年1-3月	22年4-6月	22年7-9月	22年10月
倒産件数	116	109	113	111	30
(前年比)	38.6	37.7	27.6	2.8	23.1
負債総額	398	250	429	198	43
(前年比)	30.1	77.0	40.3	50.9	76.0



景気ウォッチャー調査(9月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・残暑でエアコンが意外に伸びたことから、前年と比べると非常に良かった。エコポイント制度が追い風となり、薄型テレビもよく売れている(家電量販店)

<先行き>

・たばこの駆け込み需要の反動で、10月からの数か月は全体の売上が多少厳しくなる。ただし、これは一過性の動きであり、景況感がこれ以上悪くなることはない(スーパー)。

